

水俣のSDGsについて知ってもらうためのイベントをしよう！

背景

水俣はかつてメチル水銀による深刻な環境汚染が起り、現在に至るまで水俣病で苦しんでいる患者さんやご家族がいる。水俣病は海を汚染しただけでなく、人々のそれまでの生活や、地域のつながりまで破壊した。二度とこのような悲劇を繰り返してはならないという思いから、水俣の人たちは町全体で環境対策に取り組んでいる。その活動が認められ、2020年、水俣市はSDGs未来都市に認定された。水俣市では行政や企業がSDGs 17のゴール達成を目指し様々な活動を行っている。
しかし、あまり水俣市がSDGsに頑張っているということが知られていないという課題がある。私達はもっと市民や観光客に水俣市のSDGs活動を知ってもらうためには…というテーマのもと、水俣市環境アカデミアや慶應義塾大学と連携し、これまでさまざまな活動を行ってきた。

今年のテーマ

水俣のSDGsな取り組みについて知ってもらいたい！

SDGsをみんなが楽しく学べるイベント！

令和5年8月26日（土）に水俣環境アカデミアにて、水俣市のSDGsをアピールする子ども向けイベントが開催されることが決定、その中の1ブースを担当させてもらうことになった。

どんなイベントにするか？

アイデアをまとめる

慶應義塾大学の方たちと一緒にアイデアを練った。「小学生がSDGsについて楽しく学ぶこと」をコンセプトに、案を2班に分かれて話し合った。

考えたアイデアを発表しあい、内容について質問しあったり、ディスカッションを行ったりした。

2つの班の良いところを総合し、また予算や実施しやすさ等を考慮し内容を修正して、「クイズ」「スタンプラリー」「射的」「かき氷（景品）」の要素を取り入れたイベントをすることにした。

イベント概要

日時 プレイベント 8月3日 15名で運営
イベント本番 8月26日 17名で運営（3年生は午後参加）
クイズ班、ダンボール銃班、アイス（景品）班に分かれて作業開始

1
段ボールで射撃用の銃を作成する

2
SDGsに関するクイズを出題。正解と思うのを銃で撃つ

3
正解した数に応じてスタンプGET

4
スタンプの数に応じてアイスのトッピングをもらえる

クイズ

- ・水俣 x SDGsのクイズを作成する
- ・SDGs 17項目 x 2 の34問を準備する
- ・誰でも答えやすい4択式で出題する

（気を付けたこと）
☆的を作成しないで済むよう、壁に4択の色を投影して、的の代わりにした。
☆留学生など日本語以外の言葉にも対応できるように、英語Verも作成した。
☆聞き取りが苦手な人のために、ディスプレイで問題を掲示できるようにした。

ダンボール銃

ダンボール銃に決めた理由

- ①身近にあるもので再利用できる材料
- ②子どもでも簡単に加工できる材料

（気を付けたこと）
☆折り曲げやすいよう、事前に切れ込みをいれたものを準備する
☆弾は再利用できるペットボトルのキャップを使う
☆小さな子どもや力が弱い人でも弾が飛びやすいような構造のものを検討した。

アイス（景品）

・当初のかき氷から、値段・時間などの観点からアイスに変更
・プラスチックでなく木のスプーンと紙のカップを使用（気を付けたこと）
☆子どもにもイメージしやすいよう、トッピングをSDGs項目のカラーに合わせたお菓子を選んでもらうことにした



アポロチョコ



キャラメルコーン



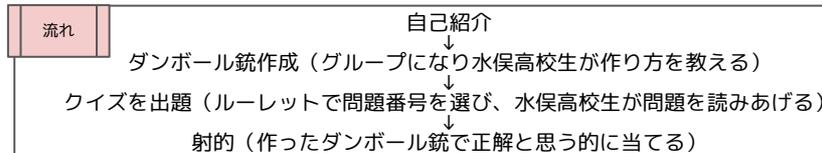
きこの、たけのこの里

プレイベント 8月3日：ASEANやアジアから日本に訪れた外国人学生と慶應義塾大学の学生と直接交流

- 準備→①外国人学生にもクイズの内容が分かるように英訳する
②ダンボール銃作成のための図入りの説明書を用意する
③WELCOMEボードを準備する



↑ダンボール銃作成の様子



課題：外国人学生との交流ということで、会話がすべて英語だったため、特にダンボール銃作成の説明がうまく伝わらなかった

良かった点：普段、様々な国の人たちと一度に交流する機会がなかったので貴重な時間だった
様々な国の文化や暮らし、環境について知ることができた

⇓クイズの正解を狙っている様子



イベント当日 8月26日：水俣環境アカデミア・来てくれた方々との交流

小さい子どもから、幅広い世代の約65人の人がイベントに参加した。（子ども～大人・海外の方など）受付後、ダンボール銃作成スペースへ移り、自分の作った銃でクイズ出題スペースでSDGsについてのクイズを解き、答えを銃で狙い、正解した数の景品（トッピング）をもらい、最後に景品のアイスをゲット。

課題：ダンボール銃作成に時間がかかりクイズゾーンが混雑してしまったこと

- ・クイズの内容が、子どもには難しいものもあった。
- ・イベントが開始後すぐは自分の役割に慣れず、上手くいかないこともあった。
- ・水俣に住む日本人だけでなく、働きに来ている海外の方ともコミュニケーションが取れた。
- ・小さな子どもへの接し方や話すときのポイントなど、とても良い経験になった。
- ・イベントが進むにつれてだんだんと慣れていき、多くの人の笑顔を見ることができた。

⇓クイズを行う様子



まとめ 今回のプレイベント・イベントを通して、イベントでの良い点・課題点がたくさん見つかった。大きな課題としては、幅広い世代を対象に行ったのに、子どもや海外の方が自分の力で行えない作業やクイズがあったことだ。今回は難易度や言語にも配慮していきたい。今回のイベントはSDGsを知ってもらうことを目標にした。次回は反省点を活かし、水俣のSDGsに関する課題と結びつけて水俣の二酸化炭素排出量や気温の情報などをデジタルアートで表現するなど、よりSDGsを理解し、もっと興味をもってもらえるようなイベントを企画・運営してみたい。